

JR東海労  
大二運分会

# 交差点

No.307  
2011年6月24日  
責任者：高原 弘幸  
発行：教宣部

## 葛西会長の「原発推進」発言に抗議する!

JR東海葛西社長は、5月24日、「原発継続しか活路はない」「リスクを承知でそれを克服・制御する国民的な覚悟が必要」などと言いたい放題の内容を「産経新聞」誌に載せました。

震災による福島第一原発事故から3ヶ月が過ぎた今も、福島の子の住民は避難を余儀なくされています。「リスクを承知で」などとする発言は日常生活を奪われ避難されている方々を無視し愚弄する内容です。新聞記事には、そういった放射能の被害から避難されている人々を思いやる記事はどこにも見当たりません。私たちは、人の命を二の次にして、経済発展を優先する葛西会長の発言は断じて認められません。

経済発展という一見綺麗ごと聞こえる言葉は裏を返せば「金儲け」を優先するということです。震災以降、国内はもとより世界からも、家族や仲間を思いやる気持ちや絆を大切にする風潮が見つめなおされています。そのこと自体は大事ですが、葛西会長や一部マスコミはその言葉に乗じて、「我慢」「奉仕」を強要するコントロールを気付かれないように強要しているのです。今回の発言は、まるでイス取りゲームの東電の社長のイスでも狙ってのようにも受け取れます。自分たちの身（立場）の安全の事しか考えられない人たちに鉄道の安全を任せていてもいいのでしょうか!? 旅客の生命を運んでいる私たち乗務員は、無責任な発言に対して乗客からどんな言葉をかけられるのか不安で仕方ありません。

最近では、各地の首長からの「脱原発」「核はいらない」とした発言が続いています。「原発」の正体と危険性は、私たちの目の前に今、はっきりと姿を現したのです。見えているのに「見えない振り」をするのはいけないことだと子供の頃の本で学んだはず。学んだはずの大人が、大人になってなすべきこととは子供の未来に責任を持つことではないのでしょうか!

そうした責任を無視して、一企業の会長が「原発推進」の発言をすること自体、社会的にも人間的にも間違っています。葛西会長は一刻も早く、避難されてる方々への謝罪と「原発推進発言」撤回の発表をするべきです。